



学級をリセットして再スタートを図る

教室を訪問すると、観察対象の子以外にも、私語や離席が多く落ち着かない子や、机に伏せている子、授業に関係ないことをしている子が何人もいて、学級が学びに向かう集団として機能していないことがあります。担任の先生の心労と体力消耗は尋常ではありません。

担任も人それぞれで、早い段階から管理職等にSOSを訴えてくる担任もいれば、逆に何も言ってこない、管理職が心配して声をかけても「大丈夫です」と、どこか寄せ付けぬ雰囲気醸している担任もいます。しかし、管理職が校内巡回する中で目の当たりにし、感じた危機感は放置できません。中でも、特定の子の不応行動に留まらず、学級全体が常時ざわついて担任の指示が通らなかったり、あちらこちらで頻りにトラブルが起こったりするような荒れた状況は、担任に指導の工夫改善を求めるだけでは解決できず、担任が潰れてしまいかねません。学校として組織を挙げてのサポートが必要になってきます。

学級がうまく機能しない状況への対応策の一つに、現在の学級の状況を一旦リセットし、**全員で再スタートを図る方法**があります。その起点となる話合いの場を設け、教師と子どもがやり直しを誓い合うのです（再契約法）。担任に加え、校長、副校長、主幹・教務主任、学年主任、児童生徒指導主任／主事など関係の教師が揃って出席し、ただならぬ厳粛な雰囲気の中で行います。臨時の授業参観の形をとり、保護者に立ち会ってもらっても構いません。以下に会の流れを例示しますが、子どもの実態や校内事情に応じてアレンジしてください。学級単位での実施が基本ですが、学年集会形式で行う方法もあります。事前に司会進行（担任以外）などの役割分担を決め、会の流れや方向性を確認しておきます。

授業の終わりの
時間を守ります

- ① 担任が、現在の学級の状態と、その状態に対する思いや感情を率直に語る。
↓ 原因追及や説論はしない。最後に、やり直したいとの思いを述べます。
- ② 子どもが、学級の状態をどう思っているかを発表する。
↓ 不満を吐き出させ、教師批判があっても受け止めます。その場の発言のほか、事前に無記名で紙に書かせ、教師が読み上げる方法もあります。
- ③ 担任が、再スタートを切ることに宣言する。
↓ 現況では楽しい学校生活を送れないことを確認し、やり直しを呼びかけて同意を得ます。
- ④ 子どもに、担任に対する希望や意見を尋ね、担任がそれに対して答える（事前記入も可）。
↓ まず教師が変わろうとする意欲と姿勢を見せ、今後守る／努力する内容を宣言します。
- ⑤ 担任が、児童に対して「守って欲しいこと」を1～2つ程度述べる。
↓ 話の聞き方や、話し方に関する具体的な行動レベルの内容とします。「○○○しない」といった禁止の表現よりも「○○○する」と肯定的な表現が分かりやすくベターです。
- ⑥ 担任と子どもがお互いに守る内容と、日々のチェックの方法を確認する。
↓ 紙に書いて掲示するとともに、帰りの会などで担任と児童とで評価することとします。
- ⑦ 管理職がまとめの話をします。



期待感を込めて、先生方全員で応援していくことなどを直接語りかけます。

特に②④は、担任にとってはきついかも知れませんが、このプロセスは子どもが納得し、やる気になるためにはとても重要です（特に小学校の中学年以上）。

冬休み明けは、年度末に向けて再スタートを切る好機と言えるでしょう。

担当 学校生活適応支援アドバイザー（飯山・大瀧）
TEL 639-4392